



感染症発生動向調査速報

2026年 第19週

令和8年5月4日 ~ 令和8年5月10日

送信先 感染症週報登録関係機関 担当者 様 送信日 令和8年5月14日(木)

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	14w	15w	16w	17w	18w	19w
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	0.67	0	0	0	0	0.00
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	0	0	0.33	0	0	0.00
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0	0.5	1	0.50
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0	0	0	2	2	0.00
	感染性胃腸炎	-	20	12	2.5	2.5	3.5	1.5	3	1.00
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	手足口病	-	5	2	0	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0	0	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0.5	0	0.50
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	0	0	0	0	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI)	-	-	-	16.33	13.67	13.67	21.00	20.00	12.67

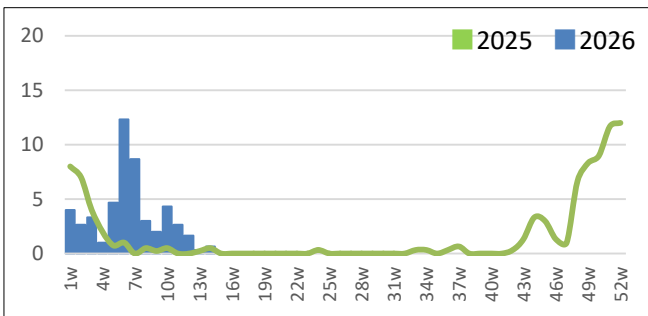


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

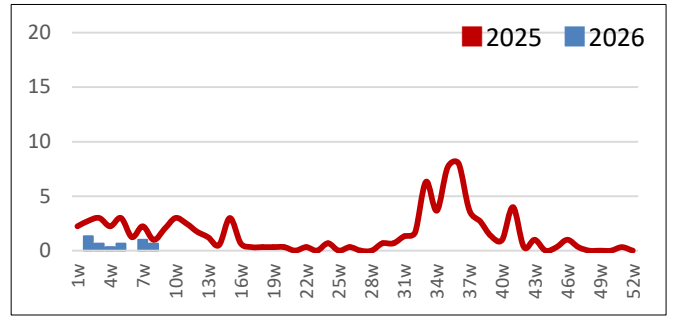


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈ダニ媒介感染症にご注意ください〉

■野外の藪や草むらに生息しているマダニ類やツツガムシ類は、「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」、「日本紅斑熱」、「つつが虫病」等の感染症を媒介します。春から夏にかけてマダニ等の活動が活発になりますので、別添の厚労省リーフレットを参考に「ダニに咬まれない対策」に努めてください。

〈麻しんに関する情報〉

■現在、国内では2019年以降、2番目に高い水準で患者数が推移しています。麻しんの感染経路は、空気感染・飛沫感染・接触感染の3つで、感染力が非常に強く、免疫を持たない方が感染するとほぼ100%発症すると言われています。予防にはワクチン接種が有効ですので、定期接種(1歳児、小学校就学前)に努めましょう。(県内における本年の発生件数は2件(何れも長崎市保健所管内)です)

■厚生労働省ホームページ「麻しん(はしか)」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

全国・県・五島の発生状況はホムア°-ジ 参照 <https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/>

全国・県・五島の発生状況はホムア°-ジ 参照 <https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/>

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第19週 2026年5月4日(月)～2026年5月10日(日) 2026年5月14日作成

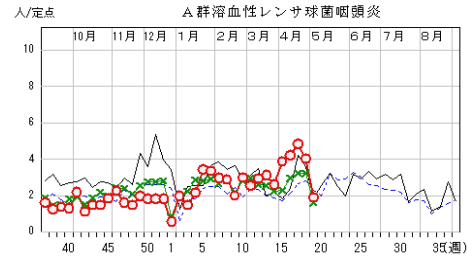
☆定点[※]報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第19週の報告数は59人で、前週より66人少なく、定点当たりの報告数は1.90であった。

年齢別では、10～14歳(13人)、6歳(8人)、8歳(7人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(5.50)、県南保健所(5.00)、西彼保健所(3.00)であった。

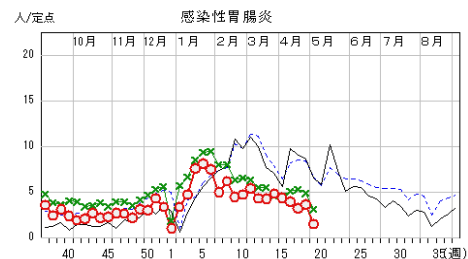


(2) 感染性胃腸炎

第19週の報告数は47人で、前週より66人少なく、定点当たりの報告数は1.52であった。

年齢別では、7歳(7人)、2歳(6人)、1歳(5人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所(4.00)、県北保健所(4.00)、県央保健所(3.00)であった。

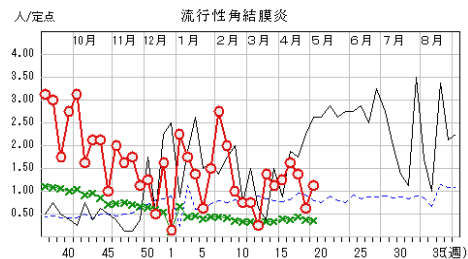


(3) 流行性角結膜炎

第19週の報告数は9人で、前週より4人多く、定点当たりの報告数は1.13であった。

年齢別では、30～39歳(4人)、40～49歳(3人)、3歳(1人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(5.00)であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第19週の報告数は59人で、定点当たりの報告数は1.90でした。地区別では、佐世保地区(5.50)、県南地区(5.00)、西彼地区(3.00)は他の地区より多く、佐世保地区は警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱(高熱)、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第19週の報告数は47人で、定点当たりの報告数は1.52でした。地区別にみると、西彼地区(4.00)、県北地区(4.00)、県央地区(3.00)は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【流行性角結膜炎】

第19週の報告数は9人で、定点当たりの報告数は1.13でした。地区別では、県南地区(5.00)が他の地区より多くなっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いため、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

☆トピックス：国内で麻疹の報告が増加しています

麻疹(はしか)は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。感染経路は、空気感染、飛まつ感染、接触感染で、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れ2~3日熱が続いた後、高熱と発しんが出現します。合併症として、肺炎や中耳炎、脳炎などがあり、死亡することもあります。

長崎県内では、2026年第13週、第16週に各1例の報告がありました。

手洗い・マスクのみで予防はできず、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)は確実にワクチンを接種しましょう。また、海外では麻疹の流行が報告されている地域もあるため、海外渡航を計画している方は、ワクチン接種が済んでいるか確認し、ワクチン接種を検討しましょう。

麻疹が疑われる場合には、医療機関に電話等で麻疹の疑いがあることを伝え、指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

●厚生労働省 「麻疹」

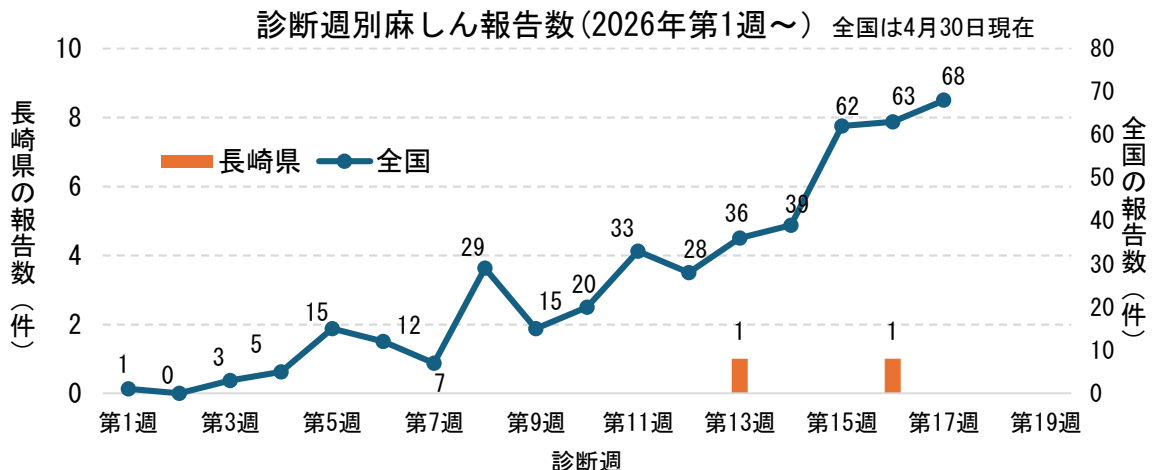
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

●国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻疹」

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/measles/index.html>

●国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト「麻疹 発生動向調査 速報グラフ 2026年」

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/index.html>



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、4月以降、SFTS 2件、日本紅斑熱 3件の報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (1)	13 (3)	13 (5)	13 (6)	12 (3)	2
日本紅斑熱	28 (5)	22 (2)	14 (3)	24 (4)	25 (3)	4
つつが虫病	14 (0)	7 (0)	15 (3)	11 (1)	2 (0)	1

※()は第19週までの発生件数

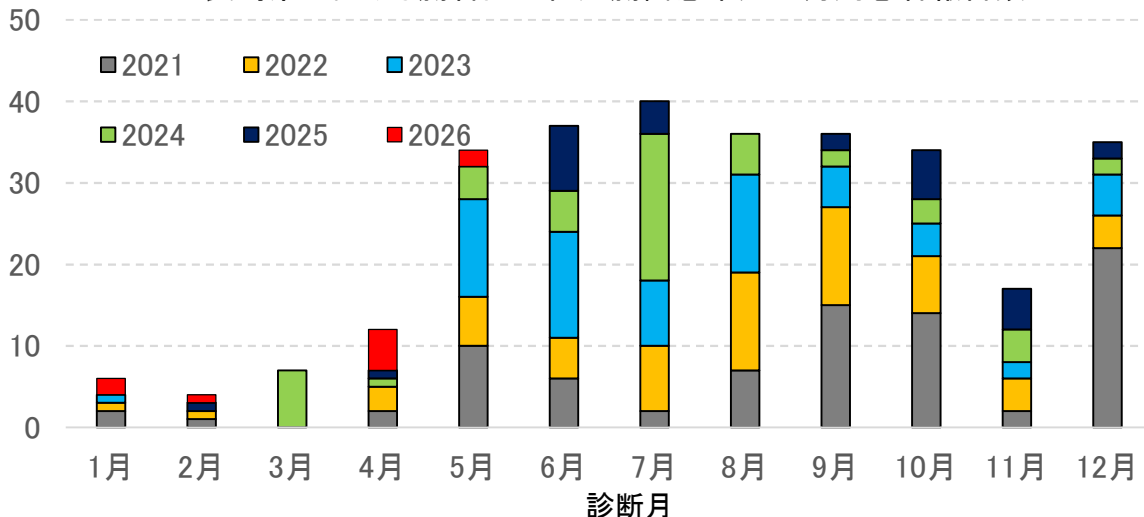
☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起し、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

県内の過去5年の発生状況を見ると、5月から報告数の増加が見られています。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう

(人) 長崎県における腸管出血性大腸菌感染症の月別患者報告数



◆全数届出の感染症

2類感染症：報告なし
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：レジオネラ症 患者 男性（60代・1名）
 5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 女性（70代・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第14~19週、3/30~5/10)

疾患名	定点当たり患者数					
	14週 3/30~	15週 4/6~	16週 4/13~	17週 4/20~	18週 4/27~	19週 5/4~
インフルエンザ	3.49	0.92	0.63	0.41	0.16	0.06
新型コロナウイルス感染症	0.35	0.20	0.24	0.12	0.16	0.12
RSウイルス感染症	1.45	1.94	1.45	1.42	1.32	0.58
咽頭結膜熱	0.58	0.71	0.84	0.81	0.90	0.42
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.61	3.87	4.23	4.84	4.03	1.90
感染性胃腸炎	4.84	4.39	3.94	3.26	3.65	1.52
水痘	0.45	0.35	0.23	0.26	0.81	0.16
手足口病	0.06	0.16	0.06	0.35	0.48	0.29
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.16	0.16	0.23	0.23	0.06
突発性発しん	0.16	0.19	0.39	0.42	0.29	0.06
ヘルパンギーナ		0.06	0.13		0.10	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）				0.03	0.10	0.03
急性出血性結膜炎					0.13	
流行性角結膜炎	1.13	1.25	1.63	1.38	0.63	1.13
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎		0.17		0.08		
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）			0.08			
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					0.08	
急性呼吸器感染症（ARI）	51.08	53.29	51.29	56.53	60.20	36.65

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第19週、5/4~5/10) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.06	0.29			0.20						
新型コロナウイルス感染症	0.12		0.18				0.40	0.67			
RSウイルス感染症	0.58	1.50	0.17			0.80	1.67	1.00			
咽頭結膜熱	0.42	0.50	0.17		0.67		1.00	2.00	0.50		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.90	5.50	0.83		3.00	0.80	5.00	1.00			1.00
感染性胃腸炎	1.52	1.00	1.00		4.00	3.00	4.00	1.00			
水痘	0.16		0.33			0.60					
手足口病	0.29		0.33		2.00	0.20					
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.06	0.50									
突発性発しん	0.06					0.40					
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03							0.50			
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.13		1.00		1.00		5.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	36.65	37.71	61.18	15.33	48.80	42.75	26.60	16.33	12.67	9.33	17.33

「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

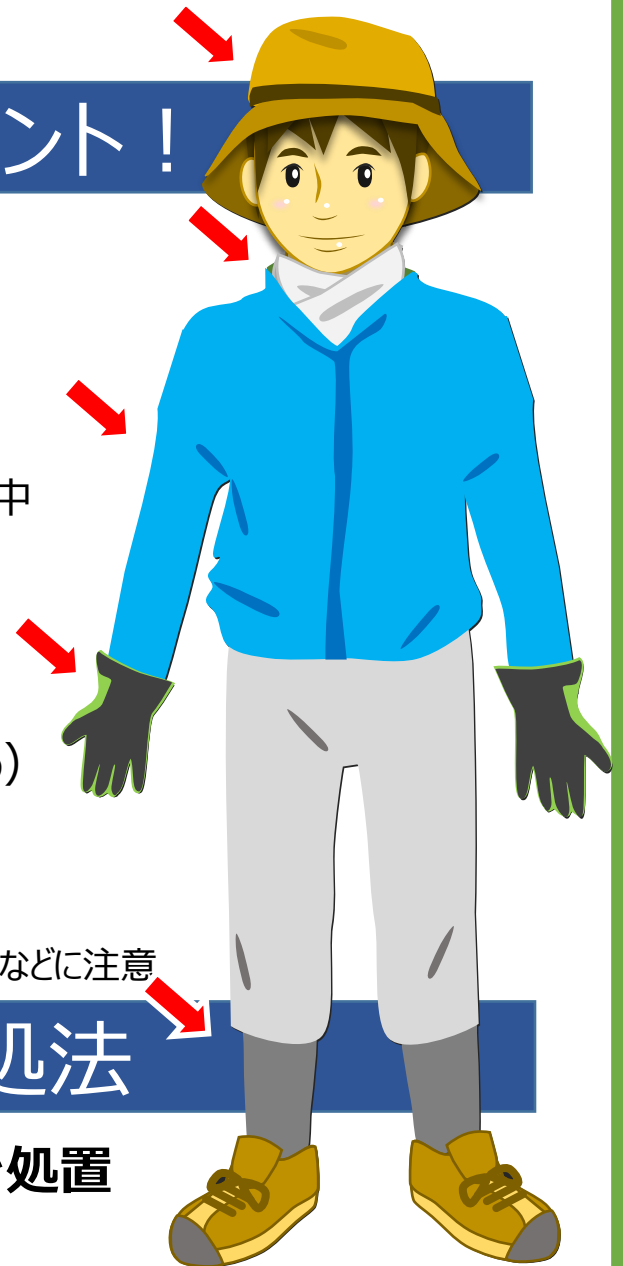
⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



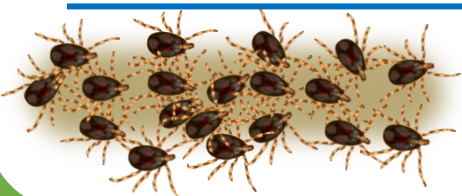
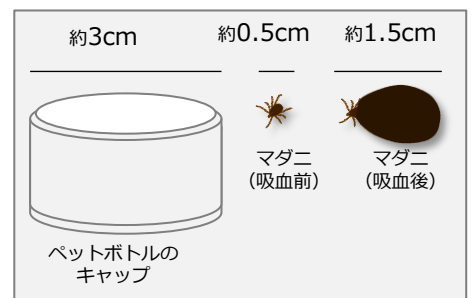
ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

